

中心市街地

すずちゅうおう
珠洲中央地区
(石川県珠洲市)

- 計画期間 平成17年度～平成21年度
- 面積 78ha
- 交付対象事業費 1,320百万円
- 市人口 13,021人

ポイント

中心市街地活性化を目的としたまちなみ整備事業

地区概要

計画区域を南北に縦断するシンボルロードから商店街への誘導や、回遊性の向上を図り、中心市街地の賑わいを図る。

目標

回遊性のある歩行環境空間の充実・魅力向上により、市民や観光客の交流を促す滞在型まちづくりの創造を図る。

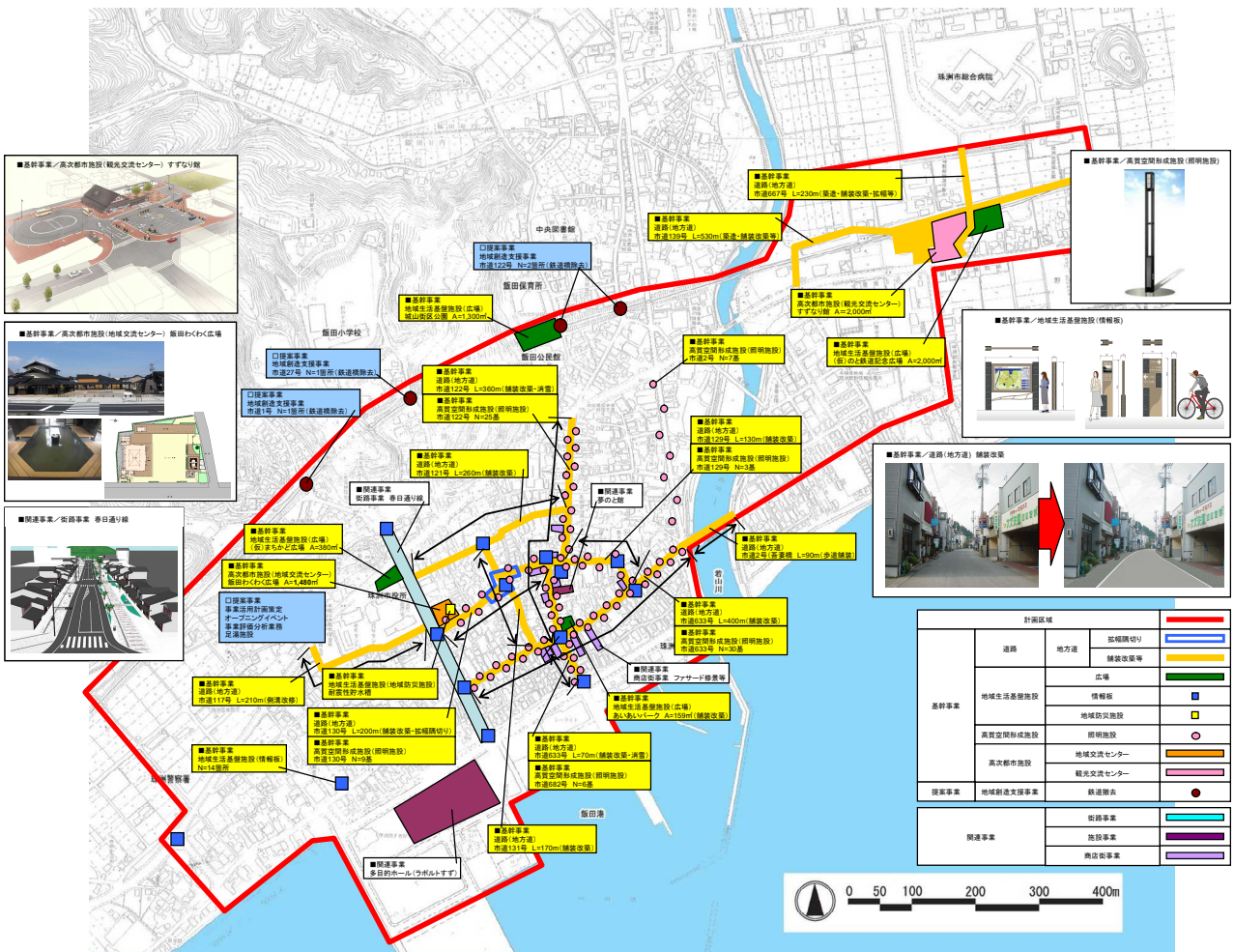
指標

中心市街地活性化の指標となりうる項目を目標とした。

商品販売額	146億円/年 (H14) → 152億円/年 (H21)
歩行者交通量	29人/日 (H11) → 200人/日 (H21)
バス乗降客数	9,500人/年 (H13) → 10,500人/年 (H21)
観光交流センター買物客数	17,000人/年 (H19) → 20,000人/年 (H21)

事業内容

- 基幹事業 (1,260百万円) → 道路(幅員4m~14m、延長2,650m)、広場整備(4箇所 3,839㎡)、案内サイン(9基)、耐震性貯水槽(1基)、照明施設(80基)、地域交流センター(飯田わくわく広場)、観光交流センター(すずなり館)
- 提案事業 (60百万円) → お祭り広場プロジェクト、オープニングイベント、鉄道橋撤去等



完了地区 石川県

地区の現況と課題

珠洲市の人口は、昭和 25 年の 38 千人をピークに減少し、平成 12 年 2 万人未満であり、高齢化率も 33%と高い。計画区域である飯田町でも過疎化、少子高齢化に伴い既存商店街の空洞化が著しい。平成 15 年 7 月に能登空港が開港し、今後の観光交流振興に向けた取組みが期待されている。



人通りのない商店街

提案事業の特徴

事業活用調査

地域交流施設の施設形態や展示素材・演出方法の検討を行う。

まちづくり活動推進事業

地域交流施設の啓発・研修活動のため、ワークショップの開催や、施工後のイベントを開催する。また、まちづくり便りを発行し、事業進捗等をお知らせする。



地域交流施設

計画策定プロセス

まちなみ部会による提案

市のシンボルロード（春日通り線）整備において、沿道におけるまちなみを検討する「まちなみ部会」にて、町全体の整備が市街地活性化には必要であるとの提案に至った。

まちづくり計画策定委員会の開催

行政と各種団体（各町内区長・商工会・観光協会・商店街・婦人会等）とでまちづくり計画策定委員会を開催し、飯田町の今後の整備方針について検討を行った。



まちづくり計画策定委員会



情報板（案内サイン）